

メディアリテラシー教育における
到達目標としてループリックを
提示した授業実践の試み

福井県立大学
学術教養センター
山川 修

問題意識



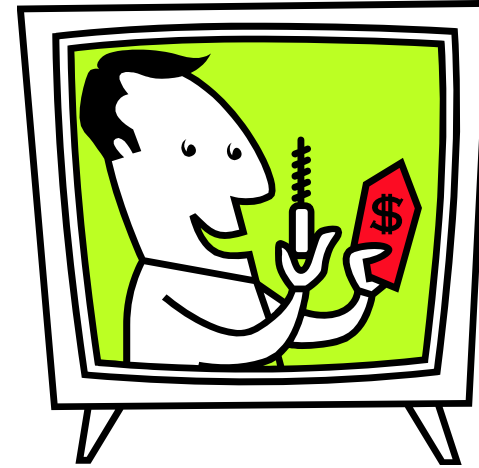
協調学習のなかで、
学習成果をどう見極
めるか？

対象とした授業

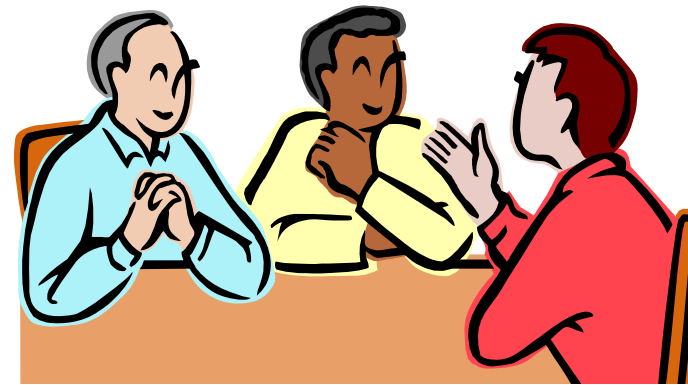
- 導入ゼミ「テレビを読もう」
- 初年次教育のための少人数(15人)ゼミ
- 1年前期の必修科目
- テレビCMの分析を通してメディアリテラシーを身に着けるのが目的
- 10年前から開講(LMSを利用)
- 5年前からeポートフォリオ(Mahara)を利用
- 今年からルーブリックを導入

シラバスに掲げた目標

- テレビ番組をクリティカル思考やメディアリテラシーの枠組みを使い論理的に分析できる



- グループ内で自分の意見をわかりやすく発表することができる



ループリックの項目

- テレビ番組をクリティカル思考やメディアリテラシーの枠組みを使い論理的に分析できる
 - 論理的読解
 - 論理的主張
 - メディア分析
- グループ内で自分の意見をわかりやすく発表することができる
 - 社会的活動

ルーブリックの項目×レベル

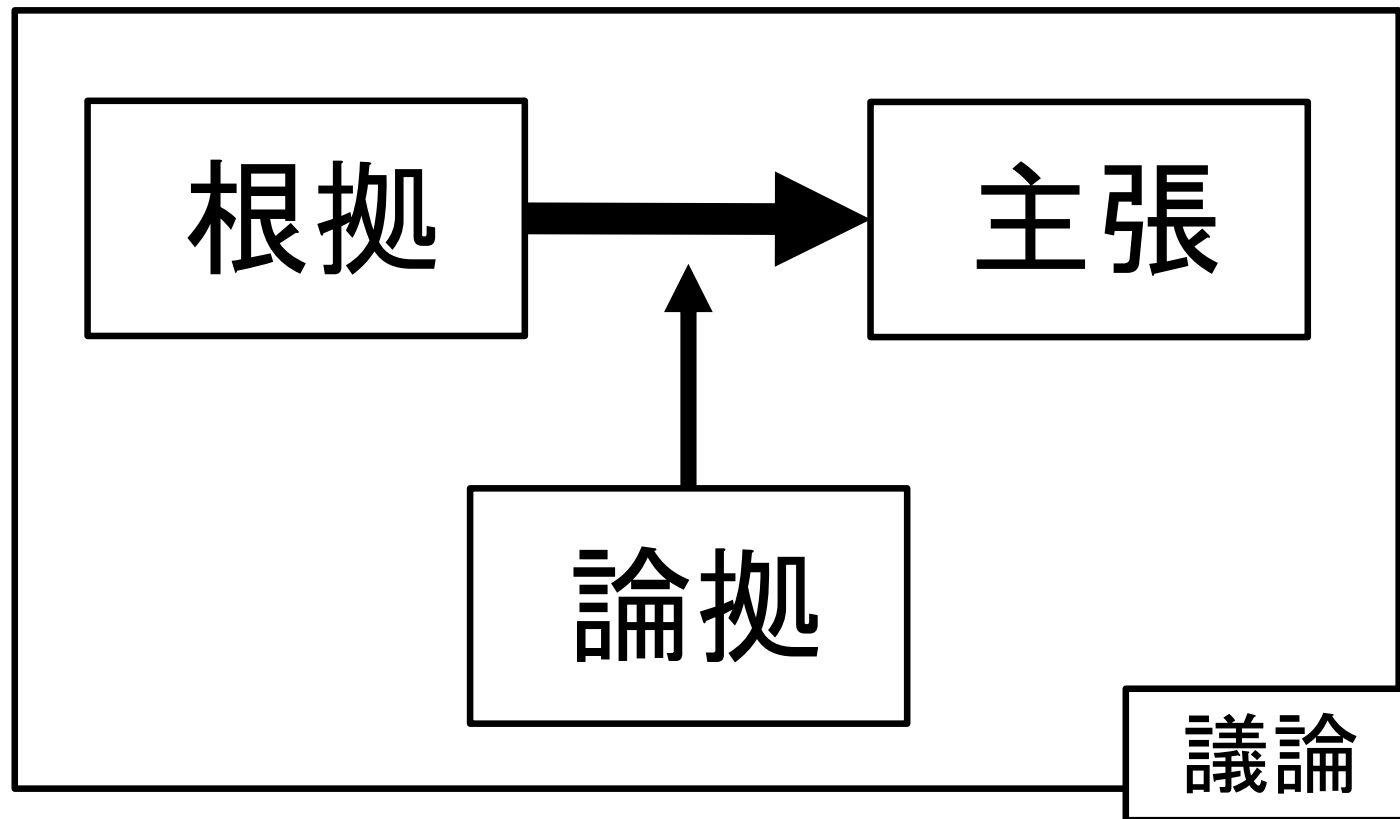
	レベル1	レベル2	レベル3
論理的読解(R)	議論から根拠と主張を同定することができる	議論の複合的な構造を同定することができる	論拠を同定することができる
論理的主張(A)	根拠を示した主張ができる	いくつかの議論を取りこんだ複合的な構造を持つ主張ができる	論拠を考慮した主張ができる
メディア分析(M)	テキスト、そのものの分析ができる	制作者の意図の分析ができる	自分の持つ価値観の分析ができる
社会的活動(S)	グループワーク時に、自分の意見を述べることができる	グループワーク時に、他の学生が考えをまとめ発言するのをサポートできる	グループワーク時に、自分の中で起きていることを観察できる

今回は、ループリックを使って
評価するという目的ではなく、
学生に、習得して欲しい項目を
意識してもらうことを目的に
作成・提示

ルーブリックの項目×レベル

	レベル1	レベル2	レベル3
論理的読解(R)	議論から根拠と主張を同定することができる	議論の複合的な構造を同定することができる	論拠を同定することができる
論理的主張(A)	根拠を示した主張ができる	いくつかの議論を取りこんだ複合的な構造を持つ主張ができる	論拠を考慮した主張ができる
メディア分析(M)	テキスト、そのものの分析ができる	制作者の意図の分析ができる	自分の持つ価値観の分析ができる
社会的活動(S)	グループワーク時に、自分の意見を述べるることができる	グループワーク時に、他の学生が考えをまとめ発言するのをサポートできる	グループワーク時に、自分の中で起きていることを観察できる

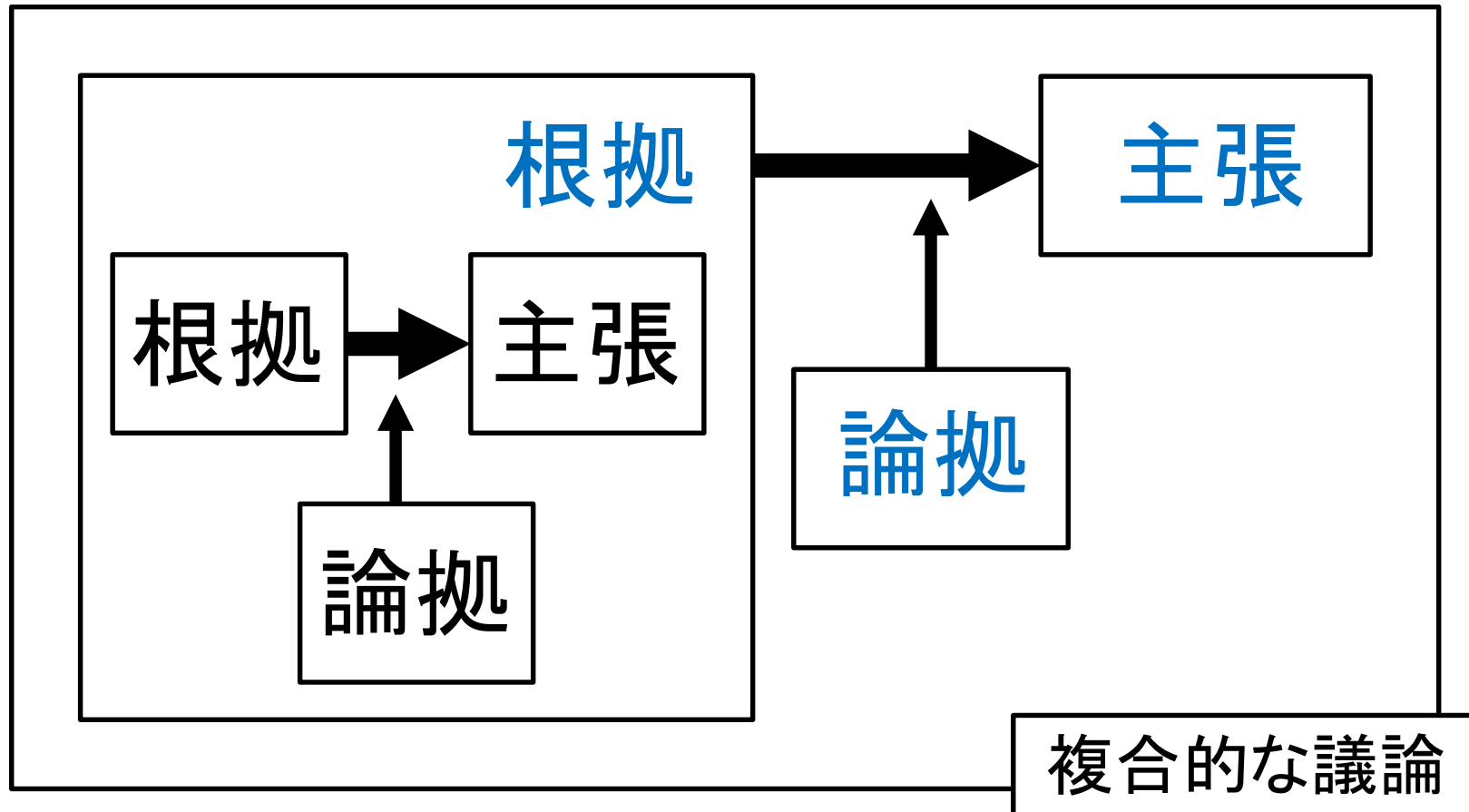
トウールミンの議論のモデル



分析例

- 朝のニュースで降水確率が80%といていたので、傘を持って行った方が良い
 - 主張: 傘を持って行った方が良い
 - 根拠: 朝のニュースで降水確率が80%と言っていた
 - 論拠: 最近の天気予報は精度があがり当日の天気予報はほぼ確実に当たるから

複合的な議論のモデル



ルーブリックの項目×レベル

	レベル1	レベル2	レベル3
論理的読解(R)	議論から根拠と主張を同定することができる	議論の複合的な構造を同定することができる	論拠を同定することができる
論理的主張(A)	根拠を示した主張ができる	いくつかの議論を取りこんだ複合的な構造を持つ主張ができる	論拠を考慮した主張ができる
メディア分析(M)	テキスト、そのものの分析ができる	制作者の意図の分析ができる	自分の持つ価値観の分析ができる
社会的活動(S)	グループワーク時に、自分の意見を述べるることができる	グループワーク時に、他の学生が考えをまとめ発言するのをサポートできる	グループワーク時に、自分の中で起きていることを観察できる

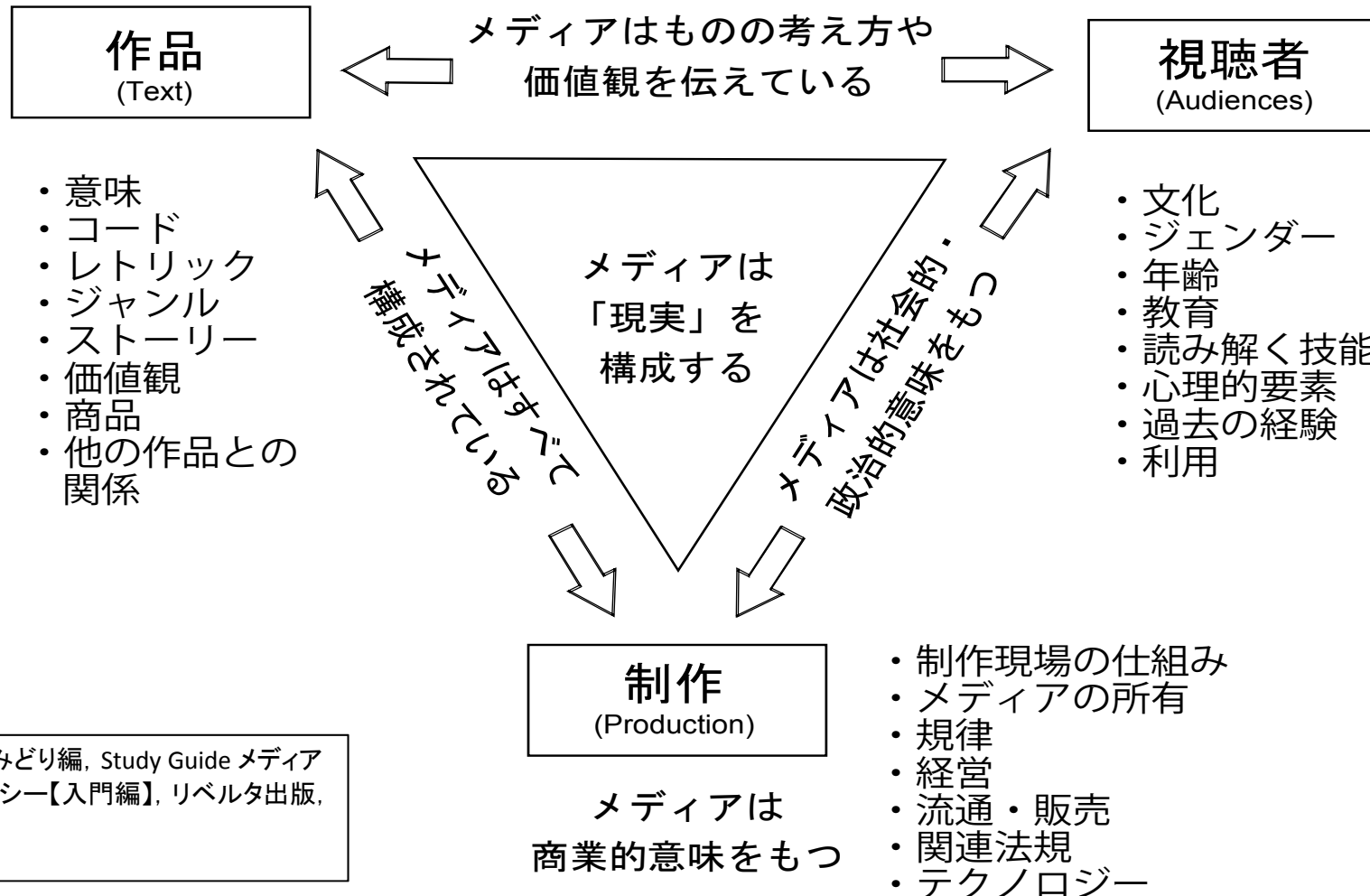
ルーブリックの項目×レベル

	レベル1	レベル2	レベル3
論理的読解(R)	議論から根拠と主張を同定することができる	議論の複合的な構造を同定することができる	論拠を同定することができる
論理的主張(A)	根拠を示した主張ができる	いくつかの議論を取りこんだ複合的な構造を持つ主張ができる	論拠を考慮した主張ができる
メディア分析(M)	テキスト、そのものの分析ができる	制作者の意図の分析ができる	自分の持つ価値観の分析ができる
社会的活動(S)	グループワーク時に、自分の意見を述べるることができる	グループワーク時に、他の学生が考えをまとめ発言するのをサポートできる	グループワーク時に、自分の中で起きていることを観察できる

メディア研究モデル／基本概念

メディアは独自の様式,
芸術性, 技法, 約束事をもつ

視聴者がメディアを解釈し,
意味を作り出す



ルーブリックの項目×レベル

	レベル1	レベル2	レベル3
論理的読解(R)	議論から根拠と主張を同定することができる	議論の複合的な構造を同定することができる	論拠を同定することができる
論理的主張(A)	根拠を示した主張ができる	いくつかの議論を取りこんだ複合的な構造を持つ主張ができる	論拠を考慮した主張ができる
メディア分析(M)	テキスト、そのものの分析ができる	制作者の意図の分析ができる	自分の持つ価値観の分析ができる
社会的活動(S)	グループワーク時に、自分の意見を述べることができる	グループワーク時に、他の学生が考えをまとめ発言するのをサポートできる	グループワーク時に、自分の中で起きていることを観察できる

ルーブリックの項目×レベル

	レベル1	レベル2	レベル3
論理的読解(R)	議論から根拠と主張を同定することができる	議論の複合的な構造を同定することができる	論拠を同定することができる
論理的主張(A)	根拠を示した主張ができる	いくつかの議論を取りこんだ複合的な構造を持つ主張ができる	論拠を考慮した主張ができる
メディア分析(M)	テキスト、そのものの分析ができる	制作者の意図の分析ができる	自分の持つ価値観の分析ができる
社会的活動(S)	グループワーク時に、自分の意見を述べるることができる	グループワーク時に、他の学生が考えをまとめ発言するのをサポートできる	グループワーク時に、自分の中で起きていることを観察できる

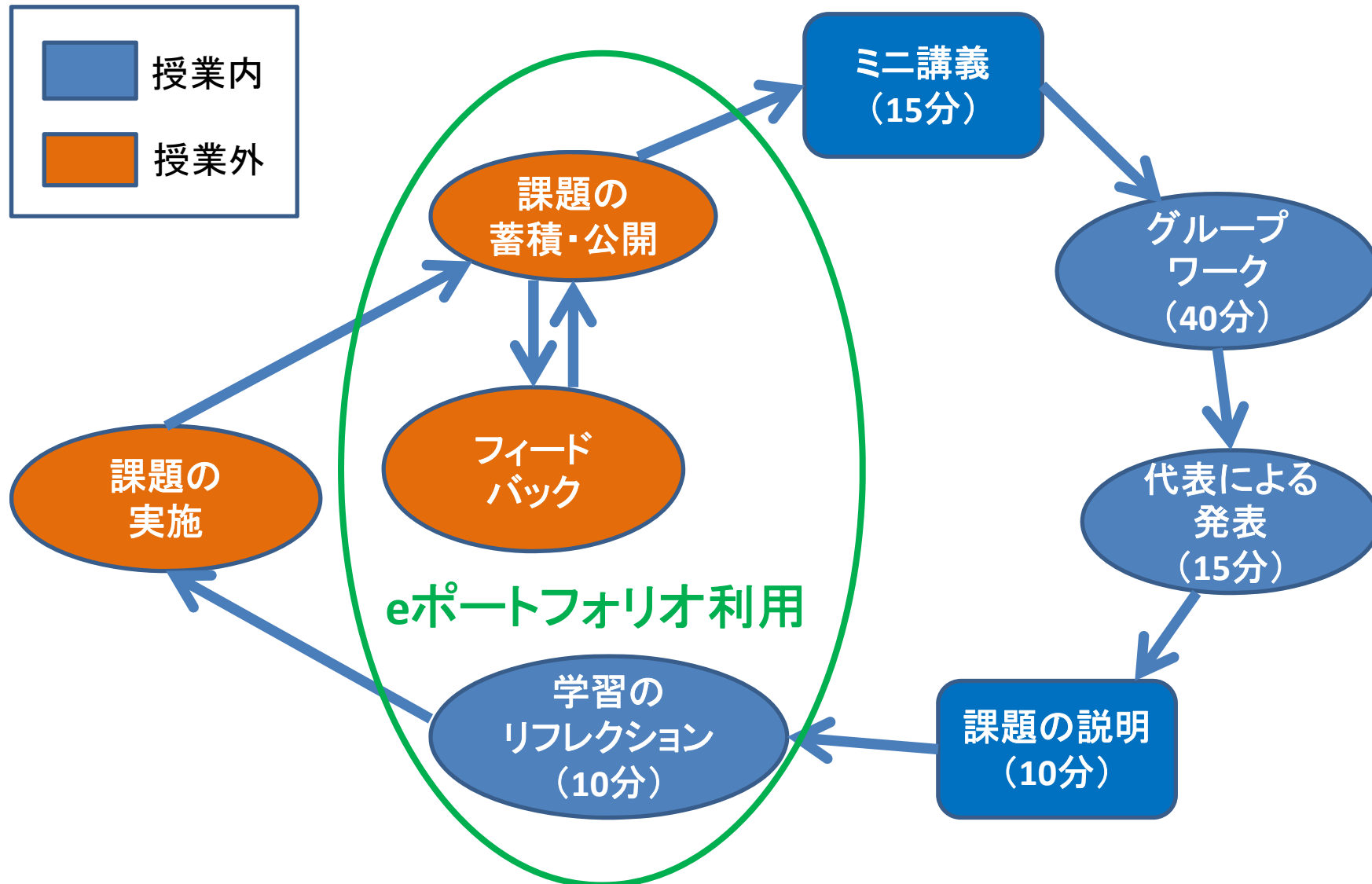
社会的活動のレベル分け

- 特によって立つ理論は想定していない
- グループワークを観察していて
 - (1)自分の意見を述べるのは基本
 - (2)相手の話すことを聞いて、相手が考えをまとめることをサポートするような発言ができると、グループワークが促進される
 - (3)自分の考えを客観視し、自分の意見を相対化できると、さらに高度
 - (1) < (2) < (3) という順番になる

ルーブリックの項目×レベル

	レベル1	レベル2	レベル3
論理的読解(R)	議論から根拠と主張を同定することができる	議論の複合的な構造を同定することができる	論拠を同定することができる
論理的主張(A)	根拠を示した主張ができる	いくつかの議論を取りこんだ複合的な構造を持つ主張ができる	論拠を考慮した主張ができる
メディア分析(M)	テキスト、そのものの分析ができる	制作者の意図の分析ができる	自分の持つ価値観の分析ができる
社会的活動(S)	グループワーク時に、自分の意見を述べるることができる	グループワーク時に、他の学生が考えをまとめ発言するのをサポートできる	グループワーク時に、自分の中で起きていることを観察できる

導入ゼミの授業サイクル



≡二講義で取り扱ったテーマ

	テーマ
1	メディアリテラシーとは
2	メディアの8つの基本概念
3	メディア研究のモデル
4	トゥールミンの議論のモデル
5	クリティカルシンキング
6	ディベートのやり方
7	Maharaの操作説明

グループワークのテーマ

	グループワークのテーマ
1	情報操作のビデオ教材を視聴した感想
2	メディア自分史
3	メディアログ
4	ディベート
5	社説分析
6	CM数量分析
7	映像言語分析
8	ターゲット・オーディエンス分析
9	価値観分析
10	ワールドカフェ

ポートフォリオの例

2014年7月の日誌

7月9日

投稿者: 前川 芳洋 投稿日時: 2014年 07月 09日 13:02

ワールドカフェを初めてやって、楽しかったです。その理由は、今までだとグループ内の3人の意見で話し合いをしてきましたが、ほかのグループと混ざることによって幅広い意見を取り入れることができたからです。グループに戻った時に、話を出していくと、自分が気付かなかったことにも気が付けて、とてもいい活動になったなと思いました。

コメント (0)

6月25日

投稿者: 前川 芳洋 投稿日時: 2014年 06月 25日 13:39

今日の講義では、日本にいる外国人への差別を学びました。日本に外国人が増えているのは嬉しいことですが、労働などの格差がひどいなど思いました。先進国の中で日本の外国人受け入れの割合が低いのは、そのせいではないかと思えます。相手国の文化や歴史をより理解し、外国人の受け入れの割合を高くして、日本の労働現場に外国人からの刺激を取り入れる必要があるなと思いました。

コメント (0)


6月18日

投稿者: 前川 芳洋 投稿日時: 2014年 06月 18日 12:13

それぞれ価値観が違って、惹かれるCMが違うことに気がつきました。CMによって対象としているライフスタイルも違い、年齢も異なるので、商品によってCMを作る人は工夫しているんだなと思いました。CMによっては、商品を宣伝するよりも物語性を重視したものもあって、それぞれの個性を出しているのもあっておもしろいと思いました。

コメント (0)

情報操作の感想

 ビデオの感想.docx
14.1KB || 詳細

メディア自分史

 メディア自分史WS.doc
32.5KB || 詳細

メディアログ

 メディアログWS.doc
37KB || 詳細

中間発表1

 中間発表.docx
18.8KB || 詳細


CM数量分析

 CM数量分析WS.doc
38KB || 詳細

映像言語分析①


 映像言語分析WS.①.doc
37KB || 詳細


フィードバックの例



山崎 洋 (yamazaki@fpu.ac.jp) - 2014年 06月 09日 11:07


【中間報告1】について 各学習ごとに根拠を箇条書きで列挙して、そこから主張を導いている点が何を学ぶことができたか、何が分かったかを見るうえでいいと思った。また、自身について気づいた点を挙げている点も見習うべきだと思った。






山崎 洋 (yamazaki@fpu.ac.jp) - 2014年 07月 03日 11:03


中間報告2について ターゲット・オーディエンス分析について、CMが対象とする人は各々異なることを分析を通して学ぶだけでなく、客観的に自分はCM製作者側から見たらこういうターゲット・オーディエンスなんだということを書いている点がとてもいいと思いました。






山崎 洋 (yamazaki@fpu.ac.jp) - 2014年 07月 08日 19:12

中間報告2を読んで、自分がどのようなことを学んだかということが、的確にまとめられていてよかったと思いました。






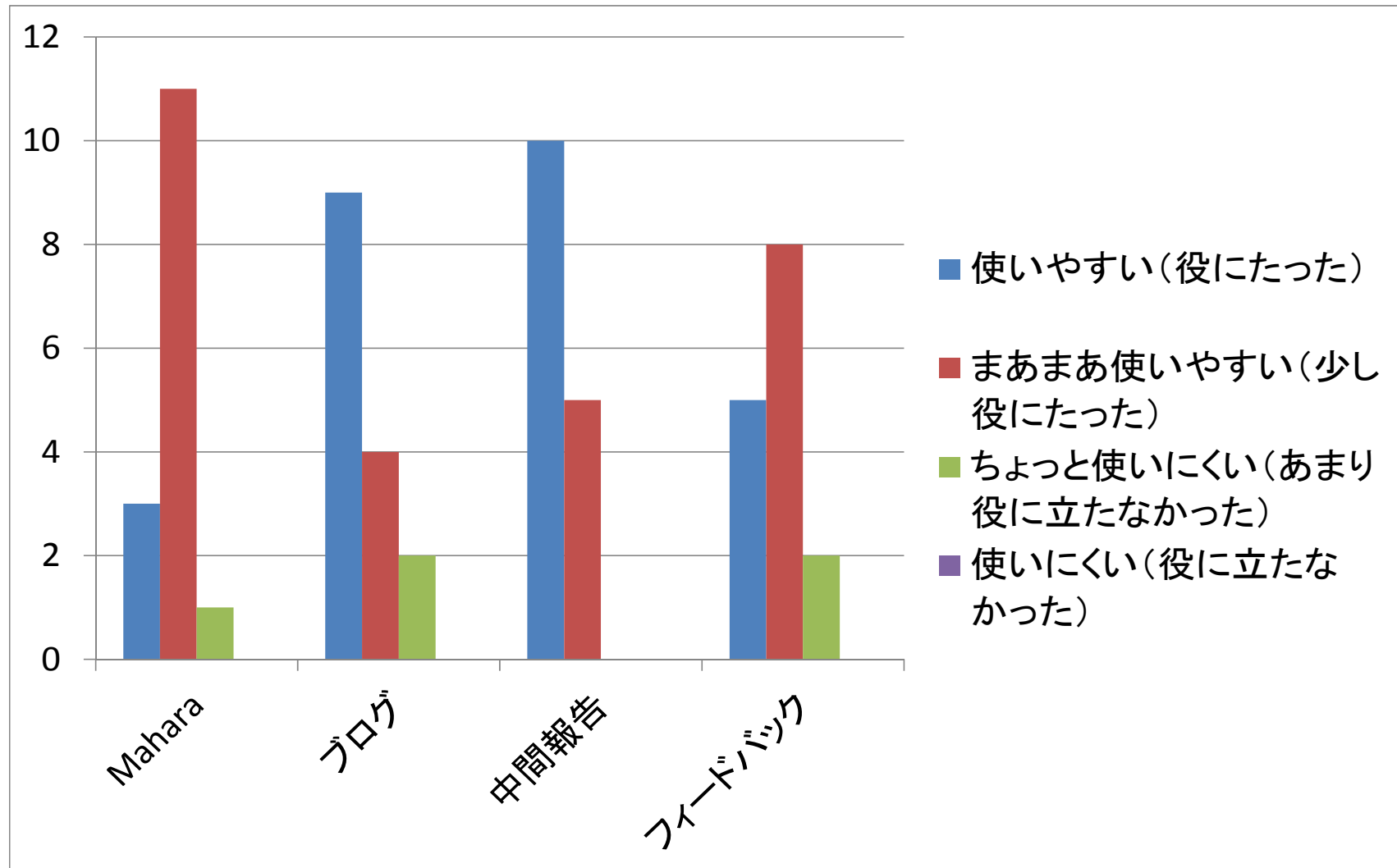
山川 修 (yamakawa@fpu.ac.jp) - 2014年 07月 15日 17:05

【中間報告2】に対して

CMから各会社がCMをつくるときにどのような点に注意を払っているのか、また、CMを見る時の自分の価値観も観察している点が良いと思いました。できれば、自分がどのような点に目がいているかを具体的に書いてもらえると、もっと良かったと思います。



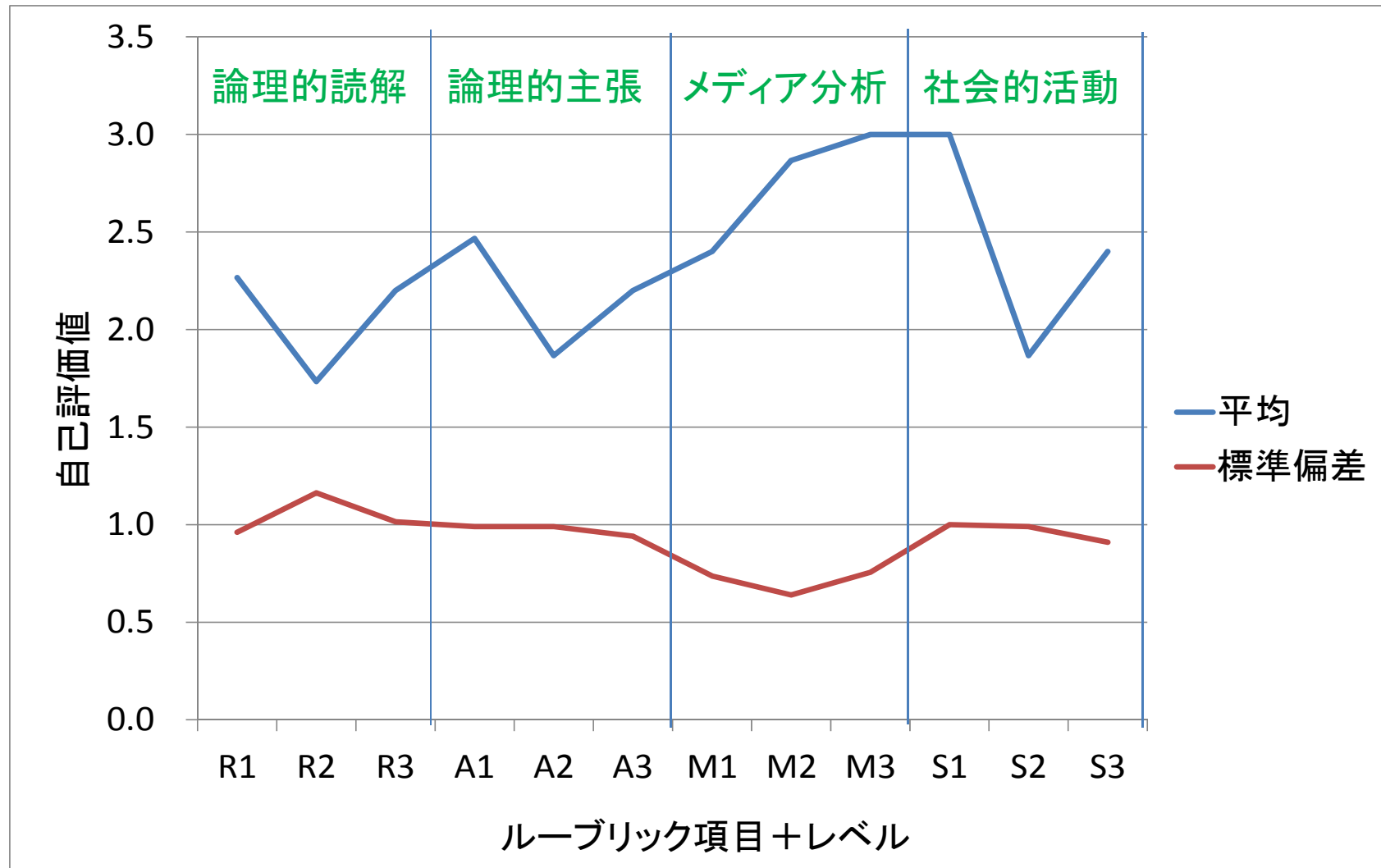
eポートフォリオと授業の評価



ルーブリックによる自己評価

- ルーブリックの各項目(R,A,M,S)・各レベル(1,2,3)において以下の基準で学生に自己評価をしてもらった
 - 0: まったくできない
 - 1: できるときがある
 - 2: 半分程度はできる
 - 3: できるときが多い
 - 4: いつもできる

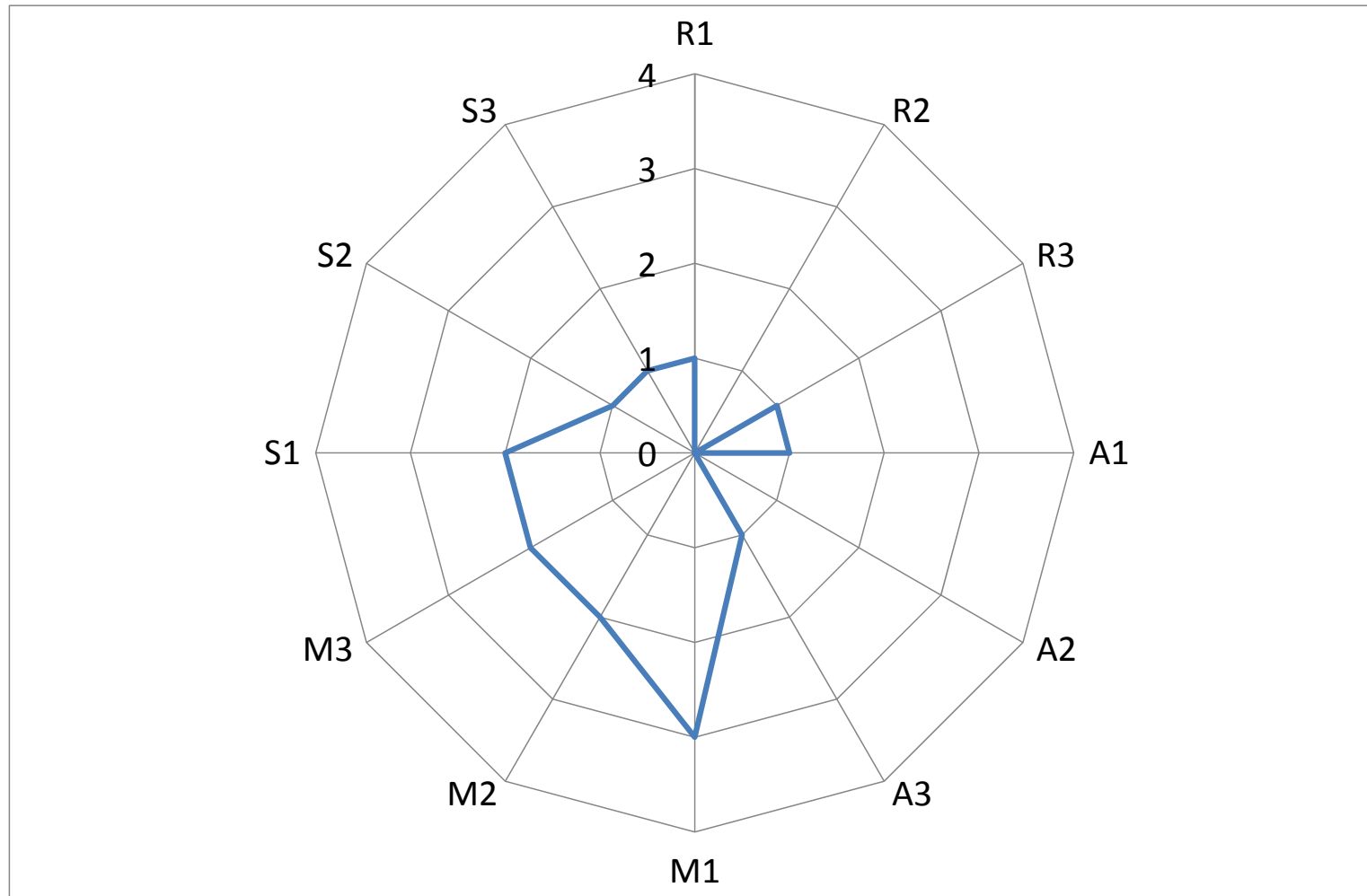
各項目・レベルの自己評価の平均



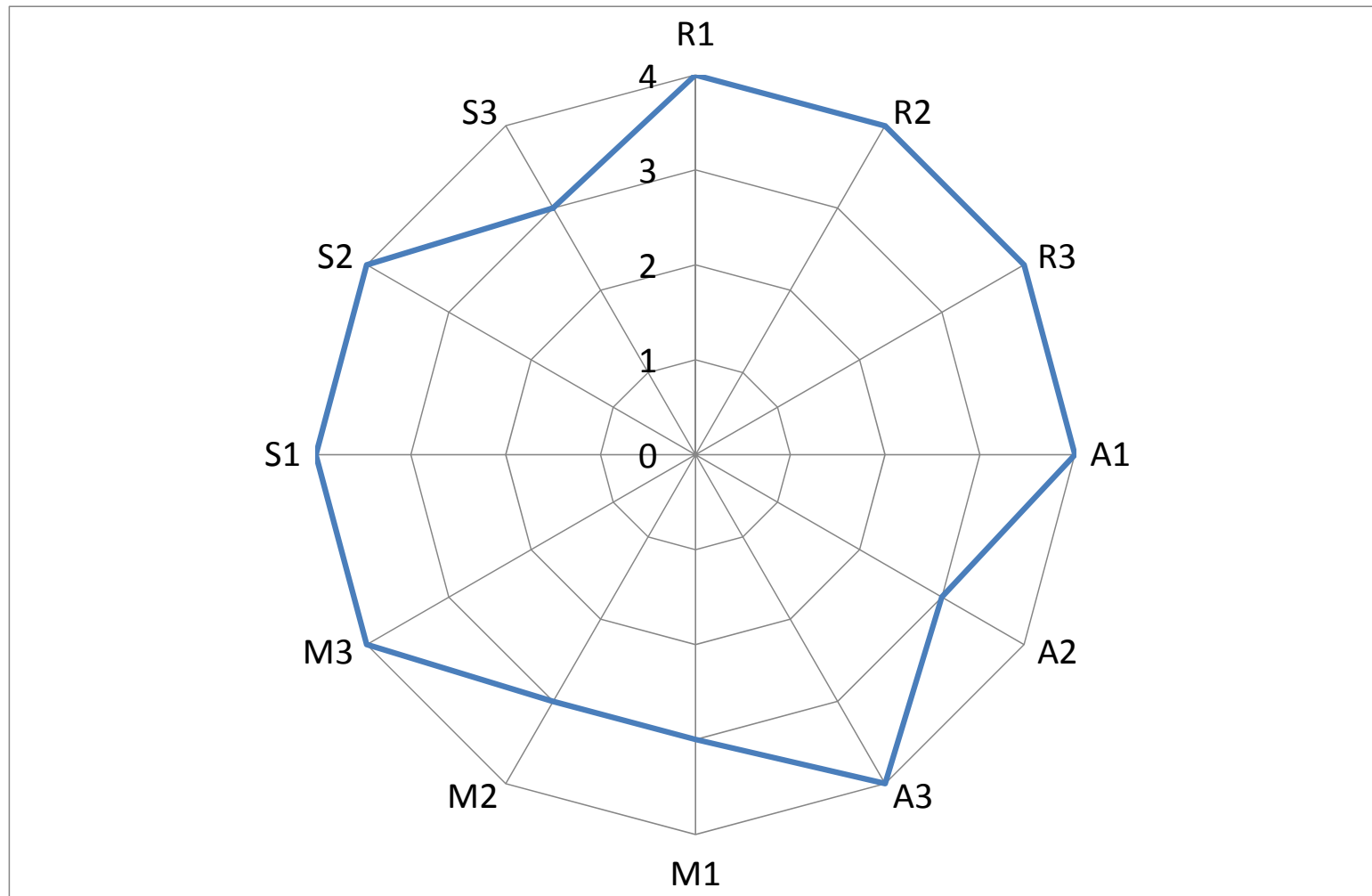
読み取れること

- 各項目において教員が設定したレベルと学生の自己評価による達成度の中に相違がある
 - 論理的読解(R), 論理的主張(A), 社会的活動(S)では, レベル2よりレベル3の主観的達成度が高い. メディア分析(M)ではまったく逆になっている.
- 教員の認識間違い? 学生の認識間違い?
- 今回設定したレベルは同じ軸ではない?

自己評価が低い学生の レーダーチャート



自己評価が高い学生の レーダーチャート



読み取れること

- 自己評価が低い学生はメディア分析(M)以外は、ほとんど0か1の評価
- 自己評価が高い学生はすべて3か4の評価
- 教員が観察していてそんなに差はない
- 自己評価の差は、自分への評価バイアスが影響している可能性が大

まとめ

- ルーブリックで到達目標を示したことで
 - 感覚的にはゼミの明確さが向上
 - 授業評価アンケートの総合評価の平均が向上？
 - 3.6/4.0(昨年) → 3.8/4.0(今年)
- ルーブリックに沿った自己評価
 - 教員が想定しているレベル付けと、学生が感じる難易度が違う
 - 自分への評価バイアスにより、自己評価の絶対値に差がでる可能性

今後の課題

- ルーブリックそのものの改善
 - 項目とレベルの関係の見直し
- ルーブリックに沿った客観評価の可能性
 - A,R: 試験から判断する
 - A,M: ブログ, 中間報告, 最終発表から判断する
 - A,M,S: グループワークを録画し分析する
 - R,A,M,S: 学生同士の相互評価を取り入れる